



ホームページアドレス <http://www1.com.ne.jp/~mizumaki>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第300号

「からしだね」が300号になりました。広報・岩本表題のとおり、私たち水巻教会の小教区報「からしだね」が300号になりました。

創刊当時はワープロでの編集で、カットなどは出来上がったものにカット集から切り取ったものを貼り付けていたそうです。そのため、編集時間が長くなり、夜までかかることが普通だったと聞いています。

その後、教会にもパソコンが購入されました。これによって教会の信徒名簿の管理もできるようになりましたが、「からしだね」の編集は早くなりました。

編集委員が個人でパソコンを持つようになったことも、編集が早くなった理由の一つです。現在は編集委員が持参した3台のパソコンとセンターのパソコンをつないでいますので、出来上がったものを、次々にセンターのパソコンに送っていくという方法で編集しています。

事前に原稿を用意するというのは、創刊のころから変わっていませんが、最近では前月から記事の内容をある程度決めていて、その内容に沿って事前の準備をしていることも編集時間が短くなった理由の一つかも知れません。

10年前ころから、パソコンのハードやメモリーの機能が不足し始めてきました。そのため教会委員会にお願いをして、新しいパソコンを入れてもらいました。このことは現在の編集作業に大きく影響しています。

新しいパソコンはメーカー製ではなく、部品を組み立てたもので破格の格安でした。その上大量のソフトを入れましたので、カットなどは自由自在です。お知らせや教会学校のページなどで大いに活用しています。

300号を迎えて特別な編集は計画していませんが、「からしだね」が創刊されてから水巻教会に在任された神父様方にコメントをお願いすることにしました。

早速、佐賀に行かれている伊東神父様から原稿が届きましたので今月号に掲載します。

ハーン神父様は、在任中熱心に原稿を書いていただきましたので、今もメールで「からしだね」を送っています。そのため、原稿依頼もメールでしたところ、現在アメリカに行っているとのことでした。アメリカ滞在の神父様と何回か連絡をしたところ、月末に帰国後に書いていただくことになりました。

これからも編集委員一同、皆さんの期待に応えられる内容になるよう努力しますのでご支援をよろしくお願いいたします。

プロジェクトM	2・3面
レプトン会の皆様へ	3面
総会報告	4面
・・・・・	・
典礼委員会	5面
聖霊の息吹に抱かれて	6面
水巻教会の皆様へ	7面
・・・・・	・
教会学校	7面
お知らせ	8面
・・・・・	・
聖書への案内	8面

プロジェクトM(水巻)

多久教会 伊東 成晃神父

みなさん、ご無沙汰しております。お変わりないですか?『からしだね』創刊 300 号おめでございます。

月日が経つのは早いもので、私が水巻を出てからそろそろ 10 年ぐらいになるでしょうか?本当にあつという間ですね!信じられません。

私は、門司に移ったり、アメリカへ行ったり、岩手県へ行ったりして、今は佐賀地区の多久・武雄教会で奉仕しています。歳も 48 になり 50 代が目の前です。

今、振り返ると本当に様々な事がありましたが、なかなか人として成長できていない自分を恥ずかしく思います。ここへきて、やっと日々の鍛錬が足らなかったと気づき始めた、そんな感じです。もっと日々を真剣に歩まなければと自戒しております。

この 10 年の中で、やはり一番の体験といえば、被災地の岩手県での生活です。そこはまさにテレビニュースで見の中近東などの紛争地帯のような光景でした。破壊され、窓や扉のない家屋はまるで爆風で吹き飛ばされた建物の様!火事が出て黒く焼けたビルは、戦火で焼かれたものによく似ていました。そして時と共に方付けられ更地になっていく街は何もかもなくなって、まるで人の営み・文明が絶えてそれ以前に戻っていく、そんな風に思えました。吹きわたる風が哀しく冷たく非情で恐ろしかったです。

そんな瓦礫の街を子供達は毎日学校へ通っていました。美しい草花や不思議な虫たちではなく、焼け焦げてどこか死の臭いがするような瓦礫を毎日見ながら登校する子供達の心には、一体どんな思い出が残るのだろうかと考えてしまいました。一番多感な世代に瓦礫の山を見て生きなければならぬなんて!何とも胸の詰まる思いです。しかも一年以上経った今でも、毎日のように余震が続いています。本当に毎日地震の恐怖と隣り合わせの生活といった感じでした。

しかし、そんな毎日でも被災者の方々は、これからの新しい街づくりに尽力されていました。自分達の街を一からみんなの手で作り直す!そんな心意気が感じられて、スゴイな!負けないんだな!と感心させられました。そして多くを学ばせていただいたと思います。

私もそれまでは、自分の住んでいる街の事などほとんど考えた事ありませんでした。「別に自分が心配しないでも、これから先も平々凡々続いて行かろう、自分が考える事じゃない」と他人事でした。でも新たな街づくりに知恵を絞られる被災者の方々の熱い姿勢を見て、自分も郷土や国、教会などをもっと大切に顧みていきたいと思うようになりました。5 年先、10 年先の日本のあり方を本当に真剣に考えたいと思いますし、教会の将来も考えて明日につながる計画を始めていきたいと思っています。

東北では、おそらく 10 年、20 年先には無くなってしまおうような教会をいくつか見えました。九州にいたら、教会がなくなるなんて事は想像もできないと思いますが、日本のあ

ちこちでそのような状況が忍び寄っていると感じています。ですから今から明日の教会のあり方をしっかり考えて作り上げて行きたいですね？

水巻の皆さんは、どんな計画をお持ちでしょう？漠然とした夢ではなくて今日からでも着実に始められる具体的なものでなければと思います。あれこれ議論している間に時間だけは過ぎてしまいます。まさに極小のからし種でもいい、たとえ一粒からでも明日のために撒きましようね！

みなさんの水巻教会のプロジェクトは何でしょう？すばらしいプロジェクトがまとまったら、私にも教えてくださいね。お手本にしたいと思います。



レプトン会の皆様へ

「私の兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは私にしてくれたことなのである」マタイ25章40節。

レプトン会の皆様いかがですか。お変わりありませんか？日中こちらはやっとな盛夏が過ぎ、風が朝夕涼しくなっています。

大変遅くなりましたが、周囲の子供たちの（園児の）環境は今までと何も変わっていないままですが（新舎はまだ使う許可が下りず、したがって炊事場もないのですが）先の見通しはどうであれ一日でも早く子供たちの為、困ってる母親たちの為に、とにかくできる条件の中で、できるだけことをしようと4月2日から子供たちに昼食をさせて居残り園児の世話を始めました。午前中の体育が終わりそれぞれ降園したあと7～8人の幼児が残ります。（3才児～5才児）。そこで聖堂をそのまま使わせていただくのですが、混合保育になり先ずは昼食からとなります。自分の家で料理をして園まで運んで配食して下さる炊事婦のルルデスさんは当園児の母親でもあります。

最初の日にはシスター達（テレジア管区長）も手伝って見守りましたのでその様子を報告します。同封の写真では、初めての居残りの体験でなんとなく落ち着かないメンバーの集まりになっている幼児なので不安もあり随分時間をかけて食べ終わりました。

口の中に入れてあげれば食べるけど一人では何と言われようとも食べようとしないう欲求不満の幼児も一人二人ではなく食堂では如実にそれが現れます。それでも回数が増えてくると次第に自立するようになってきてとてもかわいいです。

皆様の温かいご支援に感謝しながら次にはもっと明るいニュースと写真をお届けしたいと願望しております。今日はこの辺で。

皆様お元気でお過ごしください。神からの祝福が豊かに！！

イエスのカリタス修道女会・リマの聖女ローザ準管区ペルー共同体
マリアタキ保育園(子ども食堂)

2012年度 水巻教会信徒総会報告 5月20日

1. 質問(信徒):昨年度、配電盤により、支払いを幼稚園と分離したため、電気料金がある程度、変わるはずではないか。しかし、決算書からは変化が見えない。

答(総務):変更からわずかな時間しか経ってなく、今後、きちんと説明できるようにしたい。

2. 意見(信徒):シャッター代、下水費用、電気設備改修等は、納骨堂基金(営繕積み立て)から出されている。本来、納骨堂基金は独立として考えてほしい。納骨堂規約も存在している。営繕の出費は一般会計内の営繕費のところから出すべきである。繰越金も存在している。納骨堂の基金は、当聖堂建設時、約1500万円から出発したものである。

意見(総務):ハーン神父在任の時に、納骨堂部分からの支出の許可を得た。

意見(信徒):納骨堂のために、支払いしている人と、支払いしていない人がいる。この点、納骨と営繕を同一費目にするにはおかしい。

意見(司祭)委員会等で時間をかけて議論するものだ。財布は一つという考え方もある。

3. 意見(信徒):水巻教会は何を目指していくのか。宣教活動をするなど。これについては委員会で話し合われたか。

答(司祭):特に、小教区としては特別なものはない。共に学ぶという司教の方針に従い、また教区の日もある。次年度にこういうスローガンをもちたいのなら、来年の信徒総会までに、決めていくことはできる。

4. 意見(信徒):大人の日曜学校について、広報の役目を果たす「からしだね」が300号(発足15年)を迎えるが、かつて水巻教会内で、広報も含め諸活動を発足させたベリオン神父に指導・講話をお願いしたい。

答(総務):検討を行う。

<報告>

納骨堂委員より:湿気の対策を行っている。8月の13日~15日に納骨堂を開けておく。

冠婚葬祭委員会より:通夜は、教会・自宅・葬儀会館のいずれでもできる。但し、教会では、クリスマス、聖週間、毎週土曜等にできない場合もある。信徒会館の机椅子を動かすにあたっては、役員が手伝う。式の前後の外来者との対応は、遺族が行って頂く。サールナートとは契約を結んでおり、金額もお見せできる。

営繕委員長より:下水工事を行った。思わぬ事態が生じ、20万程度の値上がりがあったが、若干の値下げもあり、教会からの支払い(聖堂+(司祭館+幼稚園)の折半)は、115万円程度となった。

<司祭より>

司教様より、幼稚園の門を主道路側に作る提案があり、次のことをまとめて置くよう依頼された(なぜ、門を設けない現状になったのか、門を作るメリットとデメリット)。

信徒(元信徒会長):園庭の広さの規則がある。東側道路とは段差があり、内側のスロープを加味すると、園庭が狭くなり、門をつくれなかった。

2012年度 第1回 典礼委員会議事録

開催日時：2012年5月16日(水) 19:30 場所：信徒会館

出席者：竹森神父、山本、安永仙、俵、三谷、矢田

《報告事項》

- 1 聖母の月 ロザリオ1連祈祷 9:10より
ミサ司会者又は補佐役の先唱で5月27日まで実施
- 2 4月22日より牧山善彦神学生(横浜教区)が水巻教会にて司牧実習。
第2・4日曜日ミサ後：堅信の勉強指導、第3日曜日：高校生・青年の集会
- 3 今後の主な予定
聖霊降臨 5月27日
典礼聖歌研修会 8月19日 深堀 純氏
堅信式、司教公式訪問 11月4日

《審議事項》

- 1 主日ミサの地区別朗読当番について
その日の朗読者を司会がミサ前に確認する。
朗読者がいない場合は地区委員が事前に典礼委員に連絡する。
朗読者が登壇困難な場合、補助朗読台とコードレスマイクを使う。
(事前に典礼委員に連絡あれば準備する)
- 2 土曜日夜のミサ復活希望について
運動会、地域の草刈り奉仕出勤などで土曜夜ミサを希望する場合、2週間前までに神父又は典礼委員に連絡する。9月からは土曜日夜ミサ?
- 3 典礼委員会主催の研修会を黙想の家の中村神父様に依頼中。
仮題：信仰において生涯教育が目指すこと。
時期：7月下旬?
- 4 オルガン奏者候補：田中健三郎さん、アブドゥハン恭子さん
- 5 クリスマスパンプは、6月に現行パンフレットを見て更新を再検討する。
- 6 その他
台所の地区持ち回り清掃、第3・第4日曜日のお茶準備(ふれあい会)の募集を事務局に依頼する。
通夜用にロールピアノ購入を検討する。
信徒会館での通夜について周知。
堅信式の典礼(聖歌---聖霊の歌、よろこびの聖なる油 etc)

次回予定 2012年 6月13日(第2水曜日) 信徒会館

聖霊の息吹に抱かれて

福岡黙想の家 中村克徳 C.P.

水巻教会の皆さま、聖霊降臨の祭日おめでとうございます。わたしは、去る4月20日に、来住英俊神父に代わりまして、東京修道院から福岡黙想の家の主任として着任しました御受難会の中村神父です。ご挨拶を兼ねまして簡単に自己紹介させていただきます。

出身は北海道の北の果て、稚内市に程近い豊富町という小さな町です。御受難会入会後は、神学生時代を含めて、主に首都圏での使徒職活動に専念してきました。この黙想の家には、志願者と修練者の時に合せて2年半ほど滞在したことがあります。水巻教会は車で20~30分ほどの距離なので、これから度々お訪ねしたいと思っています。その際には、気軽に声を掛けていただくと幸いです。どうかよろしく願いいたします。

さて復活節も終わりに近づき、教会は聖霊の降臨をお祝いしています。使徒言行録の2章1~42節には、弟子たちが祈っているときに、天から炎のような舌が降り、それぞれが違う言葉でみことばを語りだした様子が描かれています。この不思議な出来事を、わたしたちはどのように捉えたらよいのでしょうか。ここに秘められた多くの神秘のうちの一つは、聖霊は福音を告げ知らせる力の源であるということです。弟子たちが自分たちも知らない様々な国の言語で語った出来事には、全世界への福音宣教という壮大なテーマが暗示されているのです。

復活された主イエスは天に昇られるときに、弟子たちに次のような使命を与えています。「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい」(マタイ28章19節)。この使命は、わたしたちを含む、すべてのキリスト者に与えられたものです。福音宣教は、使徒たちや聖フランシスコ・ザビエルのように、偉大な成果をもたらした聖人たちの働きに限定されるものではありません。一人ひとりの祈りと行いによって証されるものです。その力の源こそ、聖霊の息吹であり、主キリストがわたしたちに残してくださった恵みなのではないでしょうか。



現代社会は、利便性を追求し続けたことにより、神に頼らずとも生きていけるかのような錯覚を起こしています。神不在の社会に未来はありません。主キリストから委ねられた使命をいま一度思い起こし、神の国の実現に向けて、力を合せて歩みだしたいものです。聖霊がわたしたちに力と勇気をお与えくださいますように、共に祈りましょう。

水巻教会の皆様へ

皆様、はじめまして！横浜教区の神学生で、神学科1年のアシジのフランシスコ・牧山善彦と申します。4月からの1年間、宣教司牧実習として竹森神父様と水巻教会の皆様のもとでお世話になります。不束者ですが、どうぞよろしくお願い致します。

さて、まずは簡単に自己紹介をさせていただきます。年齢は神学院最年少の24歳で、もちろん独身。神奈川県横浜市にある二俣川教会という教会の出身で、胎児の頃からずっと教会との関わりが絶えることなく、特に大学時代には勉強よりも教区内外の青年活動や中高生の活動に明け暮れていました。不思議と切れることない縁とつながりのうちに、大学卒業後すぐに日本カトリック神学院に入学し、東京での2年間の哲学科生活を何とか乗りきって、今年の2月28日に横浜教区の司祭・助祭候補者（いわゆる、正式な神学生）として認定を受ける恵みをいただきました。そして4月から、同じ司祭召命の道を歩む多くの神学生とともに福岡での生活を始めています。

福岡での生活は初めてですが、父が佐賀県にある^{まだらしま}馬渡島の出身ということもあり、全く馴染みのない土地でないばかりか、日々の端々にどこか懐かしいような、どこか心落ち着けるような感覚を抱いています。新しい環境での新たな学びということもあり戸惑うことも多いですが、多くの方々のお支えのもとで大好きな神さまのことを学ぶ場が与えられている有り難さを日々忘れずにいたいと思っています。また、よき司牧者となれるよう今まで以上によく学び、祈り、感じ、神さまに日々をお委ねしていきたいと日々感じています。

それとともに、水巻教会の皆様との交わりの場が与えられたことを感謝したいと思います。これまで水巻教会に実習に来ていた先輩の神学生方に比べればまだまだ未熟者ですが、精一杯「水巻教会共同体のひとり」として皆様とともに歩んでまいりたいと思っています。また、特に子どもたちをはじめ、多くの方々に神学生を同じ信仰を歩む身近な存在として感じてもらいたいと思っています。私たちの交わりを与えてくださった神さまへの感謝のうちに。



教会学校のページ



5月 13日

1・2・3年生クラス (5月はマリア様の月)

- 1 ロザリオの祈りを1連となえました。
- 2 今日の聖書と典礼の中で、「互いに愛し合いなさい」ということについて話し合いました。
- 3 「マリア様の心」の歌をうたって終わりました。

4年生以上のクラスの内容は、次号にまとめて載せます。





★特別献金★

5月13日 世界広報の日献金
34,100円
ご協力ありがとうございました。

★特別寄付★

梅ノ木地区の田口真理子様より、ご寄付をいただきました。ありがとうございました。



★水巻教会ホームページアドレス★

2006年10月より水巻教会のホームページを立ち上げ、232号より「からしだね」がカラーで見られるようになっていいます。今回300号を記念して、表題にホームページのアドレス

<http://www1.com.ne.jp/~mizumaki>

を載せるようになりました。ホームページを、まだご覧になっていない方は、是非、見られてください。



聖書への案内 No.27 フィリピの信徒への手紙

「パウロの獄中からの手紙」と呼ばれるものの一つです。参考書によるとローマで閉じ込められた時に書かれたという説とエフェソの牢獄から書かれたという説があるようです。

フィリピの町はギリシャの北部にあり、今も当時の繁栄を物語る大きな遺跡があります。

この町はマケドニアという豊かな国の中心でした。この国を大きくしたのはフィリポス二世という王様で、この王の息子が有名なアレキサンダー大王です。アレキサンダー大王は、遠くパキスタンまで遠征をして国を大きくしました。

パウロがこの町を訪れたことは、使徒言行録 16 章に書いてあり、パウロが女性たちに会ったと書いてある小川は今もあり、小川の側で野外ミサができるようになっています。

パウロがローマで囚われたことを聞くと、フィリピの人たちはパウロの世話をするために人を派遣するほどでした。そのため、この手紙はフィリピの人々に対するパウロの温かい愛情に満ちています。2章1節～4節には信徒としての大切な心得が書いてあり、私たちも心に刻み付けていたいものです。

2章6節～11 節はとても有名で、典礼聖歌集に入っています。今年も枝の主日のミサで歌われました。